

広島市地域コミュニティ活性化ビジョンに基づく取組の推進状況について

1 支援体制の構築

「広島市地域コミュニティ活性化ビジョン」（以下「ビジョン」という。）に基づく取組を推進するため、コミュニティ再生課に各区単位で担当職員を配置するとともに、各区役所においても、地域の窓口となり相談に応じる職員を定めた上で、コミュニティ再生課が中心となって、区役所の地域起こし推進課、地域支えあい課、市社会福祉協議会（以下「市社協」という。）、区社会福祉協議会（以下「区社協」という。）と連携・協力しながら、地域における「広島型地域運営組織『ひろしま LMO（エルモ）』」（以下「ひろしま LMO」という。）の構築・運営支援などを行っている。

令和 6 年度は、よりきめ細やかな支援を行うとともに、ひろしま LMO の更なる普及促進を図るため、日頃から地域と関わりがあり、関係性を築いている各区地域起こし推進課の職員を 1 名ずつ増員し、同課を中心とした支援体制の構築に向けて取り組むほか、市社協の職員を 5 名増員し、更なる体制強化を図る。

（これまでの支援体制強化の状況）

- ・令和 5 年度：市社協の地域福祉推進課に「地域連携支援担当」を新設するとともに、同担当の職員として 6 名を増員・配置

2 ひろしま LMO づくりに取り組む地域の募集

令和 4 年 7 月以降、ひろしま LMO づくりに取り組む地域を引き続き募集している。

募集に当たっては、各区において、地区社会福祉協議会や連合町内会・自治会を主な対象とした募集に係る説明会を開催するほか、地域からの求めに応じて、随時、コミュニティ再生課、各区の地域起こし推進課、地域支えあい課、市社協及び区社協の職員が地域に出向き、ビジョンや募集内容の説明を行っている。

応募の方法	地区社会福祉協議会及び連合町内会・自治会が共同（又はいずれかが単独）で、概ね小学校区を活動範囲として活動している団体と連携のうえ、連名で応募。
応募の条件	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と協働してひろしま LMO の構築に向けて取り組む意欲があること。 ・ひろしま LMO の構築に向けた話合いの場に参加する団体を具体的に想定していること。

3 ひろしま LMO の認定状況

令和 4 年 7 月から令和 6 年 2 月 1 日までに計 43 地域から、上記 2 の「ひろしま LMO づくりに取り組む地域」への応募があり、19 地域をひろしま LMO として認定している。

残る 24 地域については、随時、コミュニティ再生課、各区の地域起こし推進課、地域支えあい課、市社協及び区社協の職員が地域に出向き、ひろしま LMO の構築に向けた伴走支援を行っている。

【表 1：ひろしま LMO の認定状況】

区分	応募	LMO 認定	構築支援中
令和 4 年度	15 地域	9 地域	6 地域
令和 5 年度	28 地域	10 地域	18 地域
計	43 地域	19 地域	24 地域

※1 令和 4 年度は 7 月 1 日からの数値、令和 5 年度は令和 6 年 2 月 1 日までの数値。

※2 応募地域の内訳は別紙 1 のとおり

【表2：行政区別ひろしまLMO認定地域一覧】

区分	学区（地区）	ひろしまLMO団体名	ひろしまLMO認定日	
1	中区	神崎	神崎学区地域運営委員会	令和5年8月3日
2		吉島東	吉島東学区孫子老のまちづくり協議会	令和5年10月2日
3		江波	江波地区地域運営委員会	令和5年12月1日
4		本川	本川LMO	令和6年1月23日
5	東区	早稲田	早稲田学区社会福祉協議会	令和5年3月29日
6		矢賀	矢賀学区まちづくり委員会	令和5年3月29日
7		上温品	上温品まちづくり協議会	令和5年7月4日
8	南区	比治山	比治山学区社会福祉協議会	令和5年3月29日
9	西区	大芝	大芝地区社会福祉協議会	令和5年3月29日
10	安佐南区	毘沙門台	毘沙門台学区社会福祉協議会	令和5年3月29日
11		大塚・伴南	大塚・伴南学区社会福祉協議会	令和5年3月29日
12		伴東	伴東学区社会福祉協議会	令和6年1月18日
13	安佐北区	飯室（旧久地）	久地まちづくり協議会	令和5年3月29日
14		大林	大林学区地域運営委員会	令和5年3月29日
15		亀山	かめやままちづくり協議会	令和5年11月28日
16	安芸区	みどり坂	ひろしまLMOみどり坂 pili.com	令和5年3月29日
17		中野東	ほことり総合企画LMO広島	令和5年12月1日
18	佐伯区	石内北	石内北まちづくり協議会	令和5年7月11日
19		河内	河内地区活性化運営委員会	令和5年9月15日

4 地域コミュニティの活性化に向けた主な取組（㊦…令和6年度新規、㊧…令和6年度拡充）

㊧ (1) ひろしまLMOの構築・運営に係る支援措置（ビジョン P58）

コミュニティ再生課と各区の地域起こし推進課、地域支えあい課、市社協及び区社協の職員が連携・協力しながら、地域における円滑な話合いのサポートや各種資料の作成支援などを行うとともに、ひろしまLMOの運営に必要な会計処理や事務局員を雇用する際の諸手続きなどを支援する税理士や社会保険労務士を派遣している。

令和6年度からは、こうした支援に加え、ひろしまLMOの構築・運営に係るノウハウの横展開を図り、ひろしまLMOの普及や効率的な運営につなげるため、ひろしまLMOの会長等を地域に派遣する制度を運用する。

（令和5年度実績）

・税理士の派遣：5件、社会保険労務士の派遣：14件 ※令和6年1月31日時点

㊧ (2) 地域で活動する協同労働団体の立上げ促進・活動支援（ビジョン P59）

地域課題の解決に資する起業を促し、地域における働く場の創出と課題の解決、地域コミュニティの再生を図るため、「協同労働」について知見を有するコーディネーターによるプラットフォームを設置し、「協同労働」という仕組みを活用して事業を行おうとする地域中核人材の発掘や育成から起業の支援、起業後のフォローアップまでの伴走型支援を行うとともに、自ら「出資者」「経営者」「労働者」となる「協同労働」の仕組みを活用した個別プロジェクトの立ち上げに必要な

な経費を補助している。

令和6年度からは、協同労働の一層の普及や促進に向け、高齢者の就業や地域社会への貢献を支援している公益社団法人広島市シルバー人材センターと連携し、協同労働団体向けの研修の機会の提供などに取り組むとともに、若い世代に地域への関心やつながりを持ってもらい、もって地域コミュニティの将来の担い手の育成にもつなげるため、若い世代に協同労働団体の業務を体験してもらう事業を実施する。

(本市の支援を受けて立ち上がった団体数)

- ・令和5年度：3団体 ※令和6年1月31日時点
- ・令和4年度：4団体

≪「協同労働」個別プロジェクト立ち上げ支援事業補助金の概要≫

区 分	内 容
実施主体	広島市
上限額等	100万円／年、補助率1/2
助成件数	・令和5年度：2件 ※令和6年1月31日時点 ・令和4年度：4件

(3) 地域活動などに参加しやすい環境づくり (ビジョン P59)

① 職員の地域活動などに参加しやすい環境づくり

本市職員の地域活動への参加を促すため、町内会・自治会活動への参加を対象に加えたボランティア休暇制度や、同活動への参加や民生委員・児童委員としての活動等を業績目標の一つとして設定できるようにするなどの見直しを行った業績評価(人事評価制度として年2回実施)を運用・実施している。

② 企業等の地域貢献活動への参画促進

企業等で働く現役世代が職務内外で地域貢献活動に参画しやすい環境づくりを進めるため、地域貢献活動休暇制度整備促進事業及びひろしま型地域貢献企業認定制度を実施・運用するほか、企業等の地域貢献活動に関する啓発イベントを開催している。

ア 地域貢献活動休暇制度整備促進事業

概 要	地域貢献活動休暇制度（従業員が地域貢献活動に参加する場合に取得できる有給休暇制度）を整備し、同制度の周知を通じて従業員の休暇取得の促進に取り組む企業等について、本市ホームページ内の特設サイトに企業名を掲載する。
公表企業等	なし ※令和6年1月31日時点

イ ひろしま型地域貢献企業認定制度

概 要	地域貢献活動に積極的な企業等を「ひろしま型地域貢献企業」として認定する。 【認定のメリット】 認定マークの付与、本市ホームページ内の特設サイトに企業名や活動内容等を掲載、本市の入札制度等における優遇措置
認定企業等	13社 ※令和6年1月31日時点

ウ 企業等の地域貢献活動に関する啓発イベント

「これからの地域コミュニティとの関わり方カイギ」（令和5年度）

概要	持続可能な地域コミュニティの実現に向けて、企業、学校、地域活動実践者、若い世代など多様なメンバーで集まり「これからの地域コミュニティとの関わり方」について考える講演及びワークショップ
日時	令和6年2月17日（土）14：00～17：00
場所	広島大学東千田キャンパス 地域連携フロア SENDA LAB
定員	70名

(4) 住民の郷土愛とまちづくりの当事者意識の醸成（ビジョン P59）

① 若年層を対象としたワークショップ等の開催

地域活動の担い手確保につなげるため、地域への関心が低いとされている若い世代を対象に、地域活動の実践者等との交流などを通じて、地域のことを考えるきっかけとなる機会を提供するワークショップ等を開催している。

ア 「地域コミュニティづくりのリアルな現場を学ぶスタディーツアー」（令和5年度）

※開催結果の詳細は、[別紙2](#)のとおり。

概要	参加者が実際に地域等へ出向き、地域活動実践者や新たな担い手候補者と交流することで地域等の現状を知るとともに、その中で感じたことや気づきを参加者で共有し、これからの地域コミュニティとの関わり方を話し合うワークショップ
日時 場所	①令和5年8月19日（土）10：00～12：00 広島大学東千田キャンパス 地域連携フロア SENDA LAB ②令和5年9月2日（土）10：00～12：30 毘沙門台ふれあいセンター絆（毘沙門台学区社会福祉協議会） ③令和5年10月28日（土）13：00～16：15 庚午北集会所（庚午未来会議） ④令和5年11月18日（土）10：00～12：30 影集会所、くま農園（協同労働団体 里山ワッショイ） ⑤令和5年12月16日（土）13：00～16：00 広島大学東千田キャンパス 地域連携フロア SENDA LAB
プログラム	①Input「地域コミュニティづくり入門」 ②～④「スタディーツアー ～地域コミュニティの現場を巡ろう！～」 ⑤Output「これからの地域コミュニティとの関わり方を考えるワークショップ」
参加者	20名程度

イ 「これからの地域コミュニティとの関わり方カイギ」（令和5年度）【再掲】

② 学校教育活動地域連携推進事業

将来の地域社会を支える人材の育成を図るため、市立の全ての幼稚園、小・中学校、広島中等教育学校（前期課程）及び広島特別支援学校（小学部・中学部）を対象として、各学校と地域が一体となって、地域人材を活用し、地域の特性を生かした特色ある取組を行う学校教育活動地域連携推進事業を実施している。

《事業概要》

次の3つのテーマのうち、全ての幼稚園、小・中学校等が、学校運営協議会などと協議しながら、各校の歴史的、地理的、人的資源等の地域特性や子どもの発達段階を考慮した上で、最適なテーマを選択し、地域人材等を活用した取組を行う。

※ 原則、幼稚園は1回（令和6年度からは1回以上2回まで）、小学校・特別支援学校は2回以上3回まで、中学校・中等教育学校（前期課程）では1回以上2回まで実施できる。

- ・地域の自然・歴史（自然体験、まちの歴史探訪など）
- ・伝統文化（茶道、華道、神楽の体験など）
- ・キャリア教育（職業調べ、職業講話など）

(5) 町内会・自治会の加入促進（ビジョン P59）

町内会・自治会への加入を促進するため、全世代向けの加入促進チラシの配付やマンション管理組合などへの協力依頼のほか、未加入世帯が多い未就学児の親世代を対象を絞った加入促進チラシの4か月児健康診査受診時での配付などの取組を行っている。

（町内会・自治会加入率）※各年7月1日時点

- ・令和5年度：53.1%
- ・令和4年度：54.1%

(6) 地域と消防団員などとの関係づくり（ビジョン P59）

災害時に避難情報の伝達などが円滑に行えるよう、消防団員が地域で行われる防災訓練や行事等に積極的に参加するなど、地域住民と関わりを持つ活動を推進している。また、消防団活動の支援を通じて消防団の認知度を高め、将来の消防団を担う若い人材を確保するため、学生を対象とした消防団サポーター制度の普及を図っている。

(7) 災害発生時の迅速かつ的確な対応を可能とする支援体制の整備（ビジョン P59）

災害が発生した時にあっても、地域コミュニティを持続可能なものとしていくため、令和4年度から各区役所において弾力的な対応が可能となるよう職員体制を強化している。

⑧ 活動拠点運営の支援（ビジョン P59）

地区社会福祉協議会が地域住民の身近な相談窓口として様々な相談を受け止めることができるよう、市社協と連携して活動拠点へのスタッフ配置に要する経費を助成する地区社協活動拠点活性化支援事業を実施している。

これまで、市社協が実施する上記事業の助成期間は、1地区社協につき連続した3会計年度を上限としていたが、令和6年度からは補助年限を撤廃し、更なるスタッフ配置の拡充につなげる。

《地区社協活動拠点活性化支援事業助成金の概要（令和5年度）》

区分	内容
実施主体	広島市社会福祉協議会
対象団体	地区社会福祉協議会
助成期間	連続した3会計年度（上限）
上限額等	48万円／年、補助率10/10
対象経費	拠点スタッフへの謝礼金、備品・消耗品の購入費等
助成件数	・令和5年度：68件 ※令和6年1月31日時点 ・令和4年度：44件

(9) 地域・行政連携による災害対応（ビジョン P59）

災害等による断水時において行政と連携して応急給水などの災害対応を実施する協力体制を構築している。

（協力体制の構築状況）

- ・令和4年度：日本郵便株式会社と敷地を活用した応急給水の実施に係る協議書を交わした。

(10) ひろしまLMOの設立に係る助成（ビジョン P60）

地域におけるひろしまLMOの円滑な設立に資するため、市社協と連携して、ひろしまLMOの設立時に要する経費を助成している。

《ひろしまLMO設立時助成金の概要》

区 分	内 容
実施主体	広島市社会福祉協議会
対象団体	ひろしまLMO
上限額等	50万円、補助率10/10
対象経費	備品整備費、拠点改修費等
助成件数	・令和5年度：9件 ※令和6年1月31日時点 ・令和4年度：9件

(11) エリアマネジメント制度による自主財源の確保支援（ビジョン P60）

身近な街区公園等における下記㉞～㉟の活動などにより得た収益を地域活動の財源とする場合、公園を利用する際の規制を緩和する。

- ㉞ 物品販売などを主目的とする営利活動
- ㉟ 自動販売機の設置
- ㊱ 公園改良

（制度の利用実績）

- ・5年度：10件 ※令和6年1月31日時点
- ・4年度：10件

(12) ふるさと納税を活用した支援（ビジョン P60）

ひろしまLMOを構築した地域における自主財源の確保を支援するため、ひろしまLMOやその構成団体が生産等の過程に関わった地域の特産品を広島市ふるさと納税の返礼品に設定するとともに、寄附金から返礼品の調達等に要する経費を除いた額を応援交付金として、ひろしまLMOに交付している。

（ふるさと納税の活用状況）

- ・令和5年度 ※令和6年1月31日時点

団 体 名	地域の特産品（返礼品）	寄附件数・金額
大林学区地域運営委員会	大林千年（純米酒）720ml	4件・40,000円

(13) 空き家を活用した地域活性化の仕組みづくり（ビジョン P60）

中山間地域の空き家を地域資源として捉え、地域の新たな魅力の創出や、定住を促進するための住宅として再生することで人を呼び込み、地域の活性化を図るため、空き家に関する専門家で

構成する相談窓口を設置・運用し、空き家バンク等を通じて空き家の所有者と活用希望者とのマッチングを図るとともに、リフォームやリノベーションに要する経費を補助している。

(空き家の所有者と活用希望者とのマッチング実績)

- ・令和5年度：11件 ※令和6年1月31日時点
- ・令和4年度：0件

《中山間地域空き家バリュー再生・活性化事業補助金の概要》

区 分	内 容
実施主体	広島市
対象地域	南区似島、安佐南区戸山、安佐北区安佐町小河内、佐伯区湯来
対 象	①リフォーム 空き家を住居として活用するための小規模改修 ②リノベーション 空き家を住居以外の、地域の魅力スポットとして活用するための改築
上限額等	①100万円、補助率1/2 ②1,000万円、補助率1/2
助成件数	・令和5年度：2件（①1件、②1件）※令和6年1月31日時点 ・令和4年度：0件

⑭ (14) 地域団体連携支援基金事業費助成金（ビジョン P60）

みんなでつながり支え合う安全・安心なまちづくりを推進するため、市社協と連携して、地区社会福祉協議会と他の地域団体等が連携した地域課題解決に向けた取組に要する経費を助成している。

令和3年度から令和5年度末までに開始する取組を対象とした助成が終了することから、地域団体間の連携強化の維持・充実を図るため、令和6年度から令和8年度末までに開始する取組を対象として、改めて助成を実施する。

《地域団体連携支援基金事業費助成金の概要（令和5年度）》

区 分	内 容
実施主体	広島市社会福祉協議会
対象団体	地区社会福祉協議会
助成期間等	令和3年度から令和5年度末までに開始する取組を対象として、開始から最大5年間。
上限額等	50万円（助成期間内の合計）、補助率10/10
助成件数	・令和5年度：107件 ・令和4年度：69件

⑮ (15) 補助制度の見直し（ビジョン P61）

① ひろしまLMO運営助成金

市民主体のまちづくりを促進するとともに、持続可能な地域共生社会の実現に向けた取組を推進するため、市社協と連携して、ひろしまLMOの組織運営等に要する経費を助成している。

令和6年度からは、ひろしまLMOにおいて、地域の実情に応じたよりきめ細やかな組織運営を行うことができるよう、活動拠点維持管理・運営費（年度上限額200万円）と地域課題を

解決するための事業費（年度上限額 100 万円）を統合し、300 万円の範囲内で運用できるよう見直しを行う。

《ひろしま LMO 運営助成金の概要（令和 5 年度）》

区 分	内 容
実施主体	広島市社会福祉協議会
対象団体	ひろしま LMO
上 限 額	①人件費：300 万円／年、補助率 10/10（以下同じ） ②活動拠点維持管理・運営費：200 万円／年 ③地域課題解決のための事業：100 万円／年
助成件数	・令和 5 年度：18 件 ※令和 6 年 1 月 31 日時点

② ひろしま LMO 一括交付金（ビジョン P61）

ひろしま LMO において連携協定を締結している各種地域団体（以下「ひろしま LMO の連携団体」という。）における地域特性を生かした活動の更なる充実や事務負担の軽減につなげるため、市社協と連携して、市から各種地域団体に直接交付している補助金に代えて、従来の補助金の補助限度額や対象経費等を拡充・一本化した一括交付金を市社協からひろしま LMO に交付し、これをひろしま LMO の連携団体が柔軟に活用できる制度を令和 6 年度から開始する。

《ひろしま LMO 一括交付金の概要》

区 分	内 容
実施主体	広島市社会福祉協議会
対象団体	ひろしま LMO の連携団体
上限額等	以下のアとイを合算した額（連携団体分に限る。）、補助率 10/10。 ア：下表 1～5 の現行補助制度の補助対象事業費（補助限度額×2）に 3/4 を乗じた額の合計額 イ：下表 6 の現行補助制度の補助限度額と同額

（一括交付金化の対象とする現行補助金）

	補助金名称	交付対象団体	補助率
1	学区体育団体スポーツ振興事業補助	学区体育協会	1/2
2	広島市地域女性会事業補助	単位女性会	
3	学区子ども会育成連絡協議会事業補助	学区子ども会育成協議会	
4	地区青少年健全育成連絡協議会事業補助	地区青少年健全育成連絡協議会	
5	地域組織活動事業補助	単位地域活動連絡協議会	
6	地区社協助成金（運営費助成）	地区社会福祉協議会	10/10

(16) 将来的な補助金などのあり方（ビジョン P61）

ひろしま LMO にとってより使いやすい助成制度となるよう、市社協と連携して、ひろしま LMO 運営助成金や一括交付金等の運用を随時見直すとともに、一括交付金化の対象とする補助金の拡充などを検討する。

(17) 地域活動におけるICT活用の支援（ビジョン P62）

地域団体の負担軽減や地域における迅速な情報伝達に向け、団体運営においてICTが積極的に活用されるよう、町内会の役員等を対象としたICT活用講座等を開催する。

① 地域の活動を見える化！ICT活用講座

概要	地域活動等を幅広く情報発信するためのICT活用術を学ぶための講座
日時	令和6年2月18日（日）14:00～16:30
場所	合人社ウエンディひと・まちプラザ 北館6階マルチメディアスタジオ
対象	町内会・自治会や地区社会福祉協議会などの地域団体の会員
定員	100名

② ICT活用実務研修

概要	地域活動や組織運営にICTの導入を検討している地域団体を支援するため、ICTのプロを講師として派遣し、実際の活用に向けた勉強会を開催
実施期間	令和5年12月～令和6年3月末（申込受付は2月末まで）
対象	町内会・自治会や地区社会福祉協議会などの地域団体

(18) 情報発信の充実（ビジョン P62）

若い世代を中心とした幅広い世代への地域活動に関する情報発信を効果的に行うため、市の公式LINE等のSNSの活用に取り組んでいる。

（登録者数）※令和6年1月29日時点

- ・市LINE公式アカウント 123,675人
- ・市インスタグラム公式アカウント 26,000人
- ・市X公式アカウント（旧ツイッター） 34,578人

④ (19) 地域におけるデータ利活用の促進（ビジョン P62）

地域課題の解決や地域の活性化に資するよう、中心市街地の人流データを容易に確認できるウェブサイト「Hiroshima City Dashboard」や、広島広域都市圏の構成市町、圏域外の広島県市町及び広島県のオープンデータを一元的に掲載する「広島広域都市圏・広島県オープンデータポータルサイト」を公開している。

令和6年度は、より一層地域の活性化につながる取組に資するよう、「Hiroshima City Dashboard」の対象エリアを拡張するとともに、「広島広域都市圏・広島県オープンデータポータルサイト」のデータの充実に取り組む。

(20) デジタル技術などを活用した地域課題の解決の支援（ビジョン P62）

災害時などの住民の避難行動をサポートするため、ひろしま避難誘導アプリ「避難所へGo!」の円滑な運用を図っている。今後も、地域が抱える様々な課題の解決に向け、新たなデジタル技術の導入や企業との協業を進めていく。

⑤ (21) 「地域コミュニティ情報共有システム（仮称）」の構築・運用支援

ひろしまLMOの事務負担の軽減等を図るため、令和6年度から、市社協において、①情報共有フォルダ機能、②経理機能、③助成金申請・報告機能を備えた「地域コミュニティ情報共有システム（仮称）」の構築を進める。本市は、市社協に対する人的支援（情報政策課職員による構築支援）や財政的支援（構築・運用に係る経費の補助）などを行う。

(22) 「広島市地域コミュニティ活性化推進条例（仮称）」の制定に向けた取組

ビジョンで掲げる基本理念である「地域に関わるあらゆる主体が一緒になり、地域の実情に応じた諸課題を解決することができる持続可能な地域コミュニティの実現」に向けた諸施策を将来にわたり安定的に実施できるよう、基本となる条例の制定に向けて取り組んでいる。

① 持続可能な地域コミュニティの実現に向けたシンポジウム

持続可能な地域コミュニティの実現に向けた市民等の意識啓発を図るため、シンポジウムを開催した。（開催結果の詳細は、別紙3のとおり）

開催日時	令和6年2月4日（日）14：00～17：00
会場	広島国際会議場「ダリア」
プログラム（概要）	<ul style="list-style-type: none"> ・ひろしまLMOロゴマーク発表セレモニー ・基調講演 「みんなでつくる 広島型地域運営組織『ひろしまLMO』」（講師：島根大学教育学部教授 作野 広和 氏） ・トークセッション 『自分たちのまちは自分たちで創り、守る』～『共助』の精神に基づく市民主体のまちづくり～ ・ワールドカフェ テーマ① 「あなたの暮らしに地域コミュニティは必要ですか？」 テーマ② 「地域コミュニティ活動に楽しく参画するためには？」
定員	会場：300名（うちワールドカフェは100名）、Web：500名

② 「広島市地域コミュニティ活性化推進条例（仮称）」有識者会議

「広島市地域コミュニティ活性化推進条例（仮称）」の制定を検討するに当たり、有識者からの意見を幅広く聴くため、有識者会議を開催する。

③ 持続可能な地域コミュニティの実現に向けたワークショップ

市民、事業者、地域団体の各主体から幅広く意見を聴き、条例検討の参考とするため、ワークショップを開催する。

ア 第1回 持続可能な地域コミュニティの実現に向けたワークショップ（令和5年度）

開催日時	<p>① 令和6年3月23日（土）18：00～20：30</p> <p>② 令和6年3月24日（日）9：30～12：00</p> <p>※ 各回内容は同一。</p>
会場	広島大学東千田キャンパス 地域連携フロア SENDA LAB
対象者	市内在住者又は市内通勤（通学）者
参加者	各回45名程度（計90名） 〔各回、①市民（一般公募、各区推薦、庁内公募（市職員））、②事業者、③地域団体の各15名程度で構成する。〕
プログラム（概要）	<ul style="list-style-type: none"> ・基調講演 「人口減少日本でこれから起きること」（講師：（一社）人口減少対策総合研究所理事長 河合 雅司 氏） ・ワークショップ （ファシリテーター：リエゾン地域福祉研究所代表 丸山 法子 氏） テーマ① 「地域の『これから』を考える」 テーマ② 「地域コミュニティを持続可能なものにするために私たちがすべきこと」

イ 第2回 持続可能な地域コミュニティの実現に向けたワークショップ（令和6年度）

開催日時	① 令和6年5月18日（土） ② 令和6年5月19日（日） ※ 各回内容は同一。
会場	広島市役所本庁舎2階講堂（予定）
参加者	第1回に参加された方
内容	検討中

ひろしまLMOづくりに取り組む地域への応募状況（令和6年2月5日現在）

区分		小学校区	ひろしまLMO認定に関する項目	
			ひろしまLMO認定日	LMO団体名
1	中区	神崎	令和5年8月3日	神崎学区地域運営委員会
2		吉島東	令和5年10月2日	吉島東学区孫子老のまちづくり協議会
3		江波	令和5年12月1日	江波地区地域運営委員会
4		本川	令和6年1月23日	本川LMO
5		幟町		
6		白島		
7	東区	早稲田	令和5年3月29日	早稲田学区社会福祉協議会
8		矢賀	令和5年3月29日	矢賀学区まちづくり委員会
9		上温品	令和5年7月4日	上温品まちづくり協議会
10		福木（馬木地区）		
11		福木（福田地区）		
12		尾長		
13	南区	比治山	令和5年3月29日	比治山学区社会福祉協議会
14	西区	大芝	令和5年3月29日	大芝地区社会福祉協議会
15		三篠		
16		古田		
17		庚午		
18	安佐南区	毘沙門台	令和5年3月29日	毘沙門台学区社会福祉協議会
19		大塚・伴南	令和5年3月29日	大塚・伴南学区社会福祉協議会
20		伴東	令和6年1月18日	伴東学区社会福祉協議会
21		緑井		
22		伴		
23		山本		
24		安西		
25		安		
26		古市		
27		戸山		
28	安佐北区	飯室（旧久地）	令和5年3月29日	久地まちづくり協議会
29		大林	令和5年3月29日	大林学区地域運営委員会
30		亀山	令和5年11月28日	かめやままちづくり協議会
31		深川		
32		飯室（小河南地区）		
33		日浦（あさひが丘）		
34		志屋		
35		可部		
36	安芸区	みどり坂	令和5年3月29日	ひろしまLMOみどり坂pili.com
37		中野東	令和5年12月1日	ほことり総合企画LMO広島
38		矢野		
39		中野		
40	佐伯区	石内北	令和5年7月11日	石内北まちづくり協議会
41		楽々園		
42		河内	令和5年9月15日	河内地区活性化運営委員会
43		五日市東		

地域コミュニティ づくりの

リアルな現場を学ぶ

スタディツアー

A SOCIAL TOUR
TO LEARN ABOUT REAL SITES
IN THE LOCAL COMMUNITY

若年層を対象としたワークショップ

広島市企画総務局 コミュニティ再生課

1 事業概要

目的

若い世代を対象としたワークショップを開催し、様々なプログラムを通じて、若い世代の価値観や地域に対する意識を把握するとともに、参加者が地域のことを考えるきっかけとすることで、参加者の郷土愛の醸成を図り、将来の地域活動の担い手確保につなげる。

実施内容

「地域コミュニティづくりのリアルな現場を学ぶスタディツアー2023」

若い世代が実際に地域等へ出向き、地域活動実践者や新たな担い手候補者と交流することで地域等の現状を知るとともに、その中で感じたことや気づきを参加者で共有し、これからの地域コミュニティとの関わり方(できそうなこと、やってみたいこと)を話し合う。

(1) 期間 令和5年8月～令和5年12月(計5回)

(2) 参加者 約20名

(広島市内に在住または通勤・通学している20代～40代)

※大学生、子育て世代の社会人、行政職員等

2 ワークショップ

(1) 「地域コミュニティづくり入門 ～地域コミュニティの実情を知ろう！～」

広島市の取組(町内会・自治会等実態調査結果、広島市地域コミュニティ活性化ビジョン、ひろしまLMO)について学習した上で、第2回以降の現地視察先の事前情報や地域への聞き取りのポイント等を把握した。

・日時 令和5年8月19日(土) 10:00～12:00

・場所 広島大学東千田キャンパス地域連携フロアSENDA LAB

(広島市中区東千田町一丁目1-89 東千田キャンパス総合校舎L棟5階)



本日の 内容

1 地域コミュニティとは？

2 町内会・自治会等実態調査

3 広島市地域コミュニティ
活性化ビジョン、ひろしまLMO

4 私と地域コミュニティ

2 ワークショップ

(2) 「スタディツアー①②③ ～地域コミュニティの現場を巡ろう!～」

各種地域団体等の活動実践者や新たな担い手候補者から活動内容や課題等について話を聞くとともに、実際に活動へ参加することを通じて、地域の現状を知るために、以下の地域等を視察した。

【視察先】

① 毘沙門台学区社会福祉協議会(LMO毘沙門台)(毘沙門台学区)

・日時 令和5年9月2日(土) 10:00～12:30

② 庚午未来会議(庚午学区)

・日時 令和5年10月28日(土) 13:00～16:15

③ 協同労働団体「里山ワッショイ」(畑賀学区)

・日時 令和5年11月18日(土) 10:00～12:30

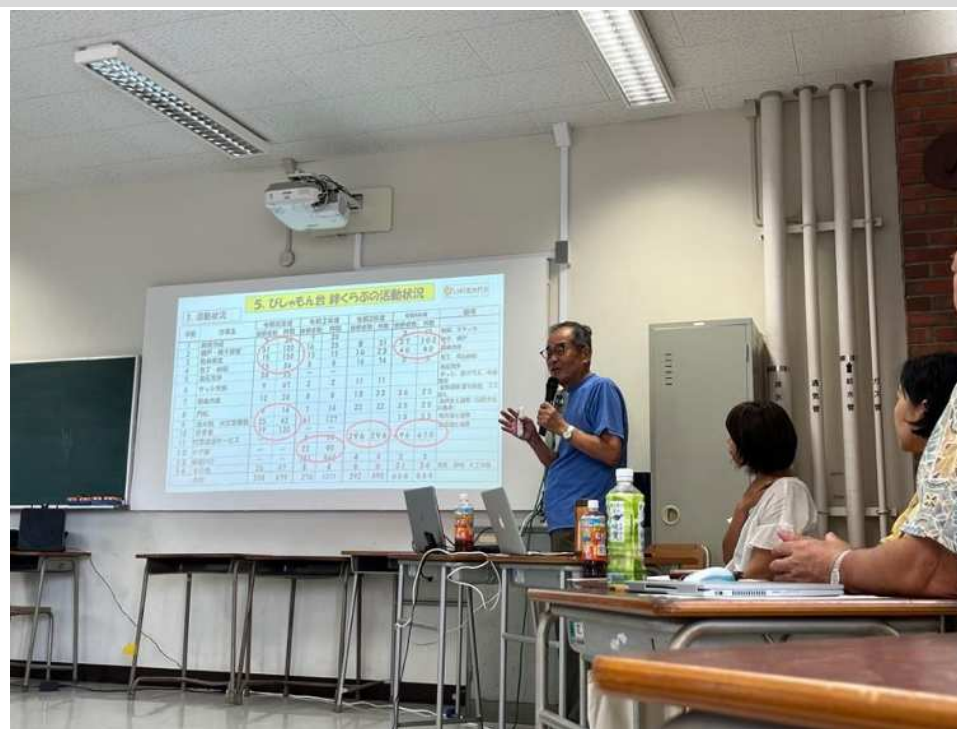
【内容】

- ・活動実践者から取組紹介・対話、新たな担い手候補者との対話
- ・活動現場視察、まち歩き
- ・参加者の振り返り、学びの整理・共有



2 ワークショップ

① LMO毘沙門台



LMO毘沙門台
マスコットキャラクター

視察先について

- 地域活動の中心であるLMO毘沙門台は、「明るく！」「元気で！」「爽やかな！」をキャッチコピーに、消防職員住宅を改修した地域住民が気軽に集える場「毘沙門台ふれあいセンター絆」の運営や協同労働団体「びしゃもん台絆くらぶ」の活動など独自の取組を通して、安心・安全な・住んでよかったまちづくりを進めている。
- 広島県立安古市高校とまちづくりに関する連携協定を結んでおり、高校生と一緒に毘沙門台学区の課題を発見して対応策を考え実施に繋げる「毘沙門台QUEST」を実施している。

2 ワークショップ

参加者の感想

- 高校生などの若い世代の行動が高齢の地元住民に好影響を与えているとお話されていて、若い世代が地域に与える力は大きいのだろうと思った。
- 若い人達の活動を受け入れ、どんどんやってもらおうという気概があり、活動を見守り支えてくれる雰囲気を感じられることで若い人達も関わりを持ちやすいと思いました。さらに若い人がいることで若い人がさらに関わりやすくなる相乗効果もあると感じた。
- 「毘沙門台ふれあいセンター絆」内を見学し、子どもから高齢者まで、様々な世代が地域活動を1つの場所に集まって行うことにより、そこから生まれる交流も多くあるのではないかと感じた。



2 ワークショップ

②庚午未来会議



視察先について

- 庚午生誕150周年(2020年)事業を実施するために、2017年に庚午地区社協の総会にて承認を受け、庚午未来会議として活動を開始した。
- 庚午未来会議では、「ブルーベリー」を活用した交流事業、イルミネーションや庚午MIRAI花火などのにぎわいづくり、地域住民とSDGsについて「いまできること」を考える庚GO-WITH PARKなどを実施してきた。
- 周年事業は終了したが、庚午未来会議は現在、地区社協、各町内会、各地域団体、企業等で構成され、庚午地区の全住民を対象とした活動の企画・調整等を行っている。

2 ワークショップ

参加者の感想

- 庚午生誕150周年事業を機に、自分の住む地域のことを知る機会を作ったことは、庚午のまちを作ってきた先人達と会話することでもあった。自分の住む地域の歴史を知っていて、語れることはかっこいいと思う。
- 昔と違って、自分で暮らす場所が選べる時代なので、ブルーベリーの栽培などテーマ的な関わり方ができるコミュニティは参加しやすいと思った。
- イベントに参加するお客様から一緒に活動する仲間に変化させるためには、それぞれの属性に合わせて、参加動機やインセンティブを組み込んでいく必要があると感じた。



2 ワークショップ

③里山ワッショイ



視察先について

- 安芸区畑賀地区では宅地化が進み新たな若い世代が増える一方、高齢化に伴い、田畑や山林の管理が困難になるケースや暮らしの困りごと・町内会未加入世帯の増加など地域の関係づくりに課題があった。それらの課題を解決するためには、会員を対象とした活動を行う町内会等の地縁団体では困難と感じ、協同労働団体「里山ワッショイ」を立ち上げた。
- 「協同労働の力で、昔ながらの里山を住民自ら取り戻せ」を合言葉に休耕田の活用と交流の場づくり、有償の困りごと支援、親子で参加できる山の魅力づくりなどを行っている。

2 ワークショップ

参加者の感想

- 協同労働は参加しているメンバーが出資も経営も労働も全てに関わることで、当事者意識を持って地域に関わることができる点が強みだと思った。
- 仕事をしながらその他の活動に自分の時間を使うことの大変さとか、高齢者の暮らしの困り事をちょっと支えたい気持ちとか、とても共感した。
- 協同労働という事業自体が新しい取組であるため、地域住民からの理解を得たり、既存の地域コミュニティとの関わり方を模索したりするためには、もっと時間と活動実績が必要なのかもしれない。



2 ワークショップ

(3) 「これからの地域コミュニティとの関わり方を考えるワークショップ」

昨年度のワークショップの結果(こういう地域コミュニティは関わりやすい、関わりにくいなど)、第2回～第4回のスタディツアーを踏まえ、人とのつながりを維持しつつ、新しい人が関わりやすい理想の地域コミュニティについて話し合った。

- ・日時 令和5年12月16日(土) 13:00～16:00
- ・場所 広島大学東千田キャンパス 地域連携フロアSENDA LAB

【内容】

- ・スタディツアーの振り返り
- ・グループに分かれて、人とのつながりを維持しつつ、新しい人が関わりやすい理想の地域コミュニティについて考えるワークショップ



2 ワークショップ

主な意見

- 人とのつながりを維持するためには、日常(挨拶や世間話)と非日常(祭りやイベントなどのにぎわいづくり)の両方が大切だと思う。非日常でつながった関係を日常に落とし込むことができれば、イベント等に参加した若い世代や新たな担い手も居場所ができ、参加しやすくなるのではないか。
- 地域コミュニティの定義を小学校区にすると若い世代や新たな担い手にとっては、範囲が広すぎてイメージしにくいいため、まずは向こう三軒両隣の範囲での課題や関心をベースにゆるくつながって活動し、活動が広がれば小学校区を範囲とした地域コミュニティと連携していくといった関わり方がいいのではないか。
- 「つながり」は、悪く言えば、「しがらみ」になるので、地域コミュニティは、地域の情報を「知る」「知らせる」という距離感で、まずは地域に興味を持ちやすい環境をつくるのがいいのではないかと思った。
- 関わる人の負担軽減のためにも、地域内外の方の協力や業務の外注化について考えていくのもいいかもしれない。

3 まとめ

- スタディツアーを通して、若い世代においても、地域コミュニティの重要性、必要性について考え、行動に移してみたいという方が確実に存在していることが分かった。
- 若い世代は、地域コミュニティとの関わり方に多くの選択肢があることを知っておくことで関わりやすくなるため、地域コミュニティにおいては、地域の情報や活動内容などをしっかりと発信することが重要である。
- 若い世代がいる地域＝持続する地域ではなく、若い世代が関わっていても一部の人に負担が集中すると持続していくことは難しいため、関わりやすさ(出入りの自由、意見が言いやすい雰囲気等)＋続けやすさ(ライフスタイルに合う、過度な負担がない等)といった視点で地域コミュニティを考えていく必要があるのではないか。
- 協同労働は参加者が当事者意識を持って、地域に関わることができる強みがあるため、時間と活動実績を積み上げることで、地域コミュニティの活性化につながる有効な取組である。
- 地域内外の協力を得ることやイベントの一部を外注化することなどにより、効果的・効率的な運営や関わる方の負担軽減につながる可能性がある。

「持続可能な地域コミュニティの実現に向けたシンポジウム」の開催結果

1 開催日時

令和6年2月4日（日）14時から17時

2 開催場所

広島国際会議場「ダリア」

3 参加者数

会場：約300名（うち、ワールドカフェ：100名）

WEB参加：約160名

4 プログラム

時間	内容
14時～	○開会 ○市長挨拶（3分）
14時05分～	○ひろしまLMOロゴマーク発表セレモニー（10分）
14時15分～	○基調講演（45分） 【演題】 みんなでつくる 広島型地域運営組織「ひろしまLMO」 【講師】 島根大学 教育学部 教授 作野 広和 氏
15時～16時	○トークセッション（1時間） 【テーマ】 「自分たちのまちは自分たちで創り、守る」 ～「共助」の精神に基づく市民主体のまちづくり～ 【パネリスト】 コミュニティデザイナー、studio-L代表 山崎 亮 氏 ひろしまLMO大林学区地域運営委員会会長 坊 聡彦 氏 フリーアナウンサー、元TBSアナウンサー 柘田 絵理奈 氏 広島市企画総務局長 阪谷 幸春 【コーディネーター】 リエゾン地域福祉研究所代表 丸山 法子 氏 【コメンテーター】 島根大学教育学部教授 作野 広和 氏
16時10分～	○ワールドカフェ（45分） 【テーマ】 ①あなたの暮らしに地域コミュニティは必要ですか？ ②地域コミュニティ活動に楽しく参画するためには？ 【ファシリテーター】 リエゾン地域福祉研究所代表 丸山 法子 氏
17時	○閉会 企画総務局長挨拶

5 ひろしまLMOロゴマーク及びロゴタイプ

本市では、「ひろしまLMO」に対する市民の認知度を高め、その普及・定着を促進するため、ひろしまLMOのロゴマークを作成することとし、その制作を広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科視覚造形分野研究室（担当教員：納島正弘教授）に依頼した。その後、2年生の学生4名からデザイン案が提案され、本市による選考を経て、以下のとおり、ロゴマーク及びロゴタイプを決定した。

(1) ひろしまLMOロゴマーク



【デザインのコンセプト】

「もやい結び」という結び方に躍動感を持たせたイメージでデザインした。催合（もやい）とは複数人間が共同して作業や事業を行うことであり、その土地の人たちがお互いに持てる力で協力し合い、それぞれの地域を活性化させることで、その集合体である広島市が豊かで住みやすいまちになってほしいという願いや、催合で社会を繋げる意味を込めた。

【制作者】

広島市立大学
芸術学部デザイン工芸学科視覚造形2年
池田 優菜 さん

(2) ひろしまLMOロゴマークとロゴタイプの組み合わせ



【デザインのコンセプト】

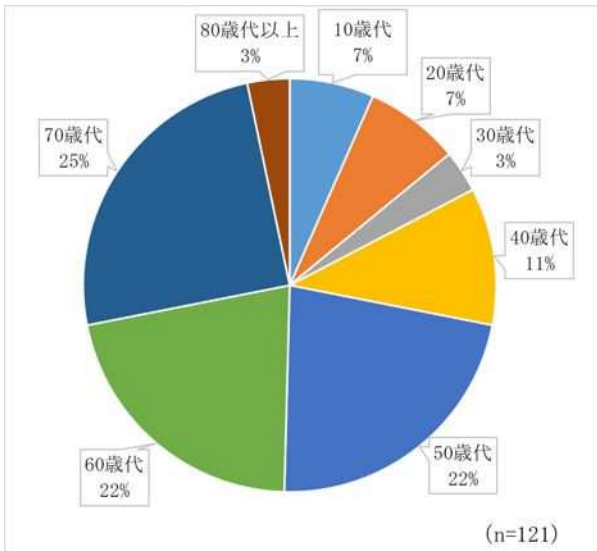
「L」と「M」と「O」のつながり目、現在から未来への「つながり」を表現した。ひろしまLMOが地域コミュニティを現在から未来につなげてほしいという思いや、次世代を担う子ども達に広島市の未来を切り拓いてつないでほしいという願いを込めた。

【制作者】

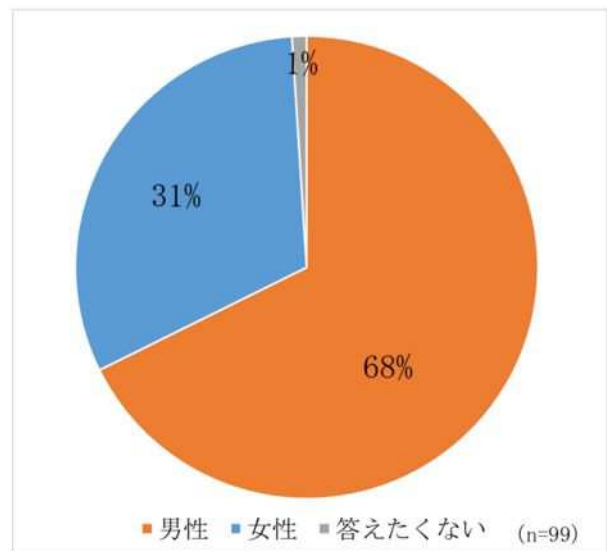
広島市立大学
芸術学部デザイン工芸学科視覚造形2年
山本 千夏 さん

6 参加者アンケート集計結果（アンケート回答者数 124人）

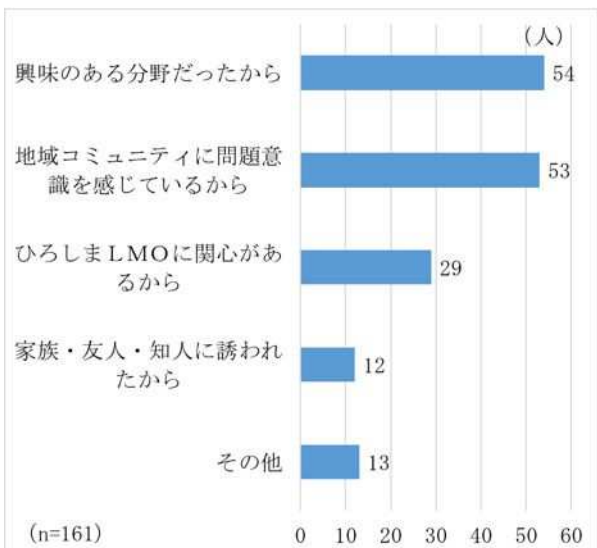
(1) 参加者の年齢



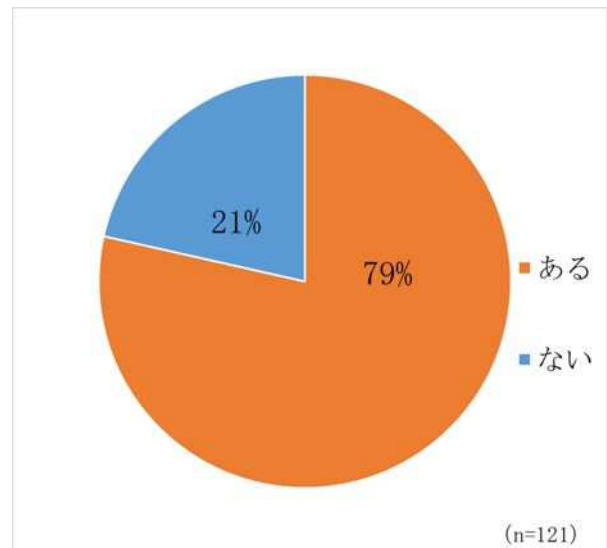
(2) 参加者の性別



(3) シンポジウムに来場した理由（複数回答可）



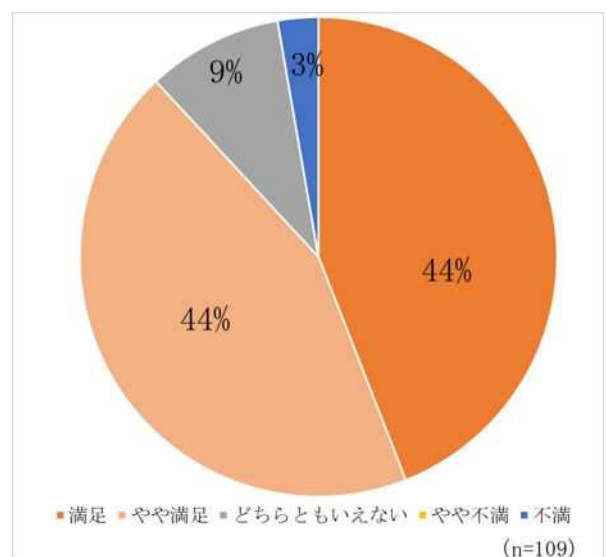
(4) これまで地域活動に携わったことがありますか



(5) シンポジウムに参加して今後地域活動に参加してみたいと思いましたが ((4)で「ない」と回答した方)



(6) シンポジウムに対する満足度



(7) 自由記載の主な意見

- ひろしまLMOを立ち上げたい気持ちが強くなった。
- 組織を作ることに焦り過ぎず、話し合いの場などを設け、考えを深めることが大切だと思った。
- 多様な主体の連携、特に企業や大学などの巻き込みが重要だと感じた。
- ひろしまLMOは行政の下請けではないということが分かった。
- 広島のことをより好きになること、広島に住み続けたいと思うことなど、ひろしまLMOは広島に沢山の利益をもたらすことを改めて知ることができた。
- ひろしまLMOが、市の転出超過の増加に歯止めをかけるための方策の一つになると思った。
- 小さなふれあいから始めることの大切さを実感した。
- よそ者も大切な資源であることを再認識した。
- 顔の見える関係づくりの大切さを感じた。
- 「自発的な想い」をどれだけ上手に取り込んでいくか、本質的なことを皆で理解することが大切だと思った。
- 一人一人の楽しみ、得意なこと、生きがい、やりがいとなることを続けていくことが結果的に誰かのためになったり、地域の困りごと解決のきっかけになると思った。
- 地域コミュニティは日々の暮らしを充実させる上で、とても大切だと改めて感じた。年齢関係なく、みんなで形成することで人生を豊かにできると思う。
- 海側と山側の交流の場など自治体を超えたつながりも今後あってもよいのではないかと感じた。
- 多世代・多文化・多業界、互いの共生や、縦型ではなく、横や斜めも含めた立体的な関係づくりが大切だと感じた。
- ずっと住んでいると当たり前になってしまうが、今までずっと地域で過ごしてきた方々の力と新しい参加者（企業、学生など）を巻き込み、みんなで地域への愛着を築いていきたいと思う。

- 地域コミュニティの多様性を担保できるシステムを作らないと、形骸化してしまい成功しないと思う。
- ひろしまLMOについて、市民に十分には仕組みが理解されていないようで、資金の使い方も工夫が必要だと感じた。
- ひろしまLMOには若い世代の参加が必要だと思うが、毎日の暮らしに精一杯でなかなか参加できそうにないと感じた。
- 旗振り役がいないとまとまらない。
- 取組が前進していない地域の話や失敗例も聞きたかった。
- 考え方はわかるが、抽象的な話が多く、具体的にはどうしたらいいのか分からない。
- 地域コミュニティに参画したいが、どうすればいいのか分からない。